

宝塚第一小学校教育環境適正化検討委員会
第 6 回 会議概要

開催日時	令和 6 年（2024 年）7 月 17 日（水） 13：20～14：40
開催場所	宝塚第一小学校 視聴覚室
出席者	【委員】13 名 【教育委員会事務局】5 名
次第・議事	1 開会 2 委員紹介と委員長・副委員長の選任 3 議題 （1）R7 新小 1 年生 及び 在校生の通学区域の弾力的運用の継続について （2）宝塚第一小学校の教育環境適正化について 4 閉会
会議の主な結果	（1）通学区域の弾力的運用について ・令和 6 年度以降も継続して取組を実施する。 ・選択した小学校の中学校にそのまま進学することができることとする。（市ホームページには図表等で分かりやすく掲載する） ・取組の効果は引き続き検証する。 （2）宝塚第一小学校の教育環境適正化について ・大規模マンションの開発による児童数の急激な増加は見られないことから、プレハブ校舎の建設については一旦保留とし、引き続き開発事業者と定期的な意見交換を行いながら、状況把握に努める。 ・過大規模校である状況に変わりはないので、引き続き本検討委員会で教育環境の適正化に向けた検討を続けていく。
会議録（要旨）	
事務局	【1 開会】 【2 委員紹介と委員長・副委員長の選任】資料 1 に基づき紹介 【3 議題(1) R7 新小 1 年生 及び 在校生の通学区域の弾力的運用の継続について】 〈資料 2 の説明〉及び下記の口頭補足 昨年度の実績や保護者からのご意見を踏まえると、宝塚第一小校区に居住する方は、宝塚第一小への思いが強く、また、今の児童数の規模に多少思うところはあるとしても、他校に転校しようとはまでは思わない方が多いということが見えてきた。 今年度については、前回いただいたご意見を踏まえて、一部内容を修正し、通学区域の弾力的運用を実施する予定であるが、この取組の効果については、引き続き検証が必要であると認識している。来年度以降の実施については、今回の実績も踏まえて検討していきたいと思う。
委員長	通学区域の弾力的運用の継続について、ご質問、ご意見はあるか。

委員	資料２の項目２（３）は、図で書いてもらえると分かりやすい。 例えば、宝塚第一小から矢印で宝梅中と光ガ丘中に進学することや、末広小からは宝梅中だけであることを、言葉だけでなく、矢印で示していただくと、他の人に説明がしやすい。例えば、現状は実線で書き、選択して行くことができる場合は点線で書く。 小学校についても、宝塚第一小学校区から西山小、末広小、逆瀬台小を選択できるという表現ができる。表現を工夫して分かりやすくしてほしい。
事務局	宝塚第一小学校区で、どこの中学校に進学するのか、１例だけ示したが、ホームページに上げる際には、表で図示したいと思う。 また、西山小学校区のうち、どこが宝梅中で、どこが光ガ丘中であるとか、末広小は宝梅中、逆瀬台小は光ヶ丘中に進学するという表現にすることは可能なため、そういったことが分かるような形で掲載させていただく。
委員長	では、図表でホームページに記載するということか？
事務局	はい。ホームページに議事録を公開する際に、資料も修正して掲載させていただく。
委員	変更点について、意向調査期間を長めに設定するということで、前は２週間だが、今回は大体１ヶ月とか、どのぐらいの期間で考えているのか？
事務局	大体１ヶ月くらいに延長したいと考えているが、発送時期等も含めて、状況確認をしているところである。
委員長	それでは基本的には１ヶ月、ただし、それは確認中ということでしょうか？
事務局	はい。発送時期等を踏まえて、期間を延ばすようにする。
委員	今回、説明会は実施されず、手紙だけの案内になるのか？
事務局	はい。手紙だけの案内で、その手紙に過大規模校である旨を記載することを考えている。
委員	資料２の項目２（３）について、これは小学校を選択して変更した人のみ、中学校を選択できるということであると思うが、それを見たときに、逆に選択しなかった人も違う中学校へ行けるようなイメージを持たれてしまうことはないのか？
事務局	今回、進学先の中学校に行けるような形で取り扱ったのも、宝塚第一小から末広小に変更したとしても、居住地域の学校に行くっていうことになった場合、それがネックになって選択できなかったという保護者のご意見があったためである。基本的に、末広小に行った場合は、皆と同じ宝梅中学校に行けるように取り扱うということが趣旨になる

	ので、今回小学校で選択しなかった方に関しては、基本的に居住地の中学校へ行ってもらおう。
委員	やはり明確に記載した方が良いと思う。小学校を選択して変更した場合は、このようになる、と記載した方が私は良いと思う。
事務局	選択しなかった場合は選ぶことができないことが分かる表記にしたい。 基本的には選択された方にしか、中学校をどこにするか、という案内は送らないので、そこでも一定防げらと思う。
委員長	例えば、武庫山にお住まいの児童が末広小を選択した場合、末広小を卒業後、この方は中学校について、宝梅中か光ガ丘中を選択できるということでもいいか？
事務局	基本的に武庫山に居住している方は、光ガ丘中学校区に進学することになるが、末広小を選択された場合は、皆と同じ宝梅中学校に進学できるような形で扱うということになる。
委員長	この話について、我々は今聞いているので理解できるが、一般の方はなかなか理解しにくいと思うので、ホームページに掲載する際には、丁寧な説明をお願いしたい。
事務局	Q & A とかも掲載したいと思う。
委員	実際に小学校を選択された当事者にのみ、中学校を選ぶことができる案内を出すということで、小学校を選択されていない関係のない保護者には案内は出さないということでしょうか？
事務局	はい。今回、小学校を選択された方については、区域外就学の手続きを申請していただくことになるが、それを中学校でも手続きしていただくというような流れになるので、当事者にのみ案内させていただく。
委員	中学へ進学するときに、いわゆる選択ができるということでしょうか？
事務局	その通りである。
委員長	他に質問はあるか？ ～質問なし～
事務局	【3 議題(2)宝塚第一小学校の教育環境適正化について】 資料 3 の説明の前に、6 月 3 日に開発事業者と意見交換をした結果を報告させていただく。

	・今年度末（R6 年度末）に完成予定の北棟について、5 月 11 日現在で全 316 戸中約 180 戸が契約済みの状況である。開発事業者が契約者に対して実施した進学先の児童数アンケート調査によると、0 歳から中学 3 年生の子どもの数は 15 名で、その内、市立小中学校に就学を予定している者は今のところ 4 名で、私立は 4 名と聞いている。残りの 7 名については、未回答である。各年代の人数は、来年度新 1 年生になる者が 6 名と一番多いが、公立 2 名、私立 2 名、未回答 2 名という状況で、それ以外の年代は各学年 1～2 名程度である。 ・南棟の契約者は、5 月 11 日現在で全 322 戸中約 60 戸が契約済みとなっている。南棟の契約者における児童数は、令和 8 年 4 月の新 1 年生 1 人、新 4 年生 1 人、新 5 年生 1 人となっているが、3 人とも私立に就学予定と聞いている。 ・販売方法については、これまでと変わらず、会員への優先先行販売を続けている状況である。この販売方法がいつまで続くかについては、南棟の販売がまだ続くので、当面は会員への優先先行販売が続く状況である。契約者は以前と変わらず 50 代～70 代の方が中心で、契約者の半分以上は宝塚市内在住の方と聞いている。 ・北棟のテナントには保育所が入る予定で、令和 7 年 4 月 1 日オープンを目指しており、契約者の引っ越し・入居時期は、令和 7 年 5 月～6 月頃に順次開始される予定である。そのため、令和 7 年度の学級編成には直接影響しないことになる。 ・現時点において、このマンション開発による児童数の急激な増加は見られないことから、前回の検討委員会で話のあったプレハブ校舎の建設については、一旦、保留とし、引き続き、開発事業者と定期的な意見交換を行いながら、状況把握に努める。 〈資料 3 の説明〉及び下記の口頭補足 ・現時点において、旧宝塚ホテル跡地に建設中の大規模マンション開発による児童数の急激な増加は見られないが、宝塚第一小学校が過大規模校である状況に変わりはないので、引き続き、この検討委員会で教育環境の適正化に向けた検討を続けていく必要がある。 ・宝塚市では、小・中学校の通学区域の整合と小中一貫教育に向けた取組を全市的に進めていく予定としているので、宝塚第一小学校についてもその中で議論をしていきたいと考えている。大規模マンションの開発による児童数の増加に対応するため、検討委員会の開催頻度を多くしていたが、小・中学校の通学区域の整合と小中一貫教育に向けた取組の方向性が決まるまでは、検討委員会の開催頻度を、半年に 1 回、もしくは学期ごとに 1 回ぐらいのペースで進めていきたいと考えている。
委員長	ご質問、ご意見はあるか。忌憚ないご意見をお願いする。
委員	これまでの会議でも説明があったと思うが、改めてお聞きしたい。大規模マンションの北、南の販売のパンフレットは取り寄せているのか？そこでは小学校区がどういう表現になっているのか？小学校区が宝塚第一小学校区となっているようであれば、これからでも書き換えをして、宝塚第一小は飽和状態であるというようなことを書き足したパンフレットに差し替えてもらいたい。

事務局	事務局でもパンフレットは入手している。そちらの資料には校区などは一切書かれていない状況である。建物についても具体的には載っておらず、基本的には「第４次販売を開始します」という情報しか載っておらず、物件の情報や価格についても、会員向けの動画サイトを見ていただくような形になっている。
委員	宝塚第一小学校の校区であるという表現もされていないのか？
事務局	はい。物件の紹介だけになっている。
委員	南棟と北棟について、「全部売れた」という情報を聞いていたが、先ほど「180戸の契約、60戸の契約」と言われた。そのような状況なのか？
事務局	5月11日の時点では、そのような販売状況と聞いている。
委員	会員ってというのはどのような会員なのか。
事務局	ジオ会員である。阪急阪神不動産の会員になった方に関して、ダイレクトメールが届くような形になる。
委員	やはり一般にオープンに販売している訳ではないということ。承知した。
委員	私が聞いたところでは、「これだけの戸数だけ販売します」と言って売っているそうで、全部を売っている訳ではないようである。
委員	販売に出した分だけ売れたということなので、全部完売したというふうに聞いていたが？
委員	特定の階の分だけ売れた、ということらしい。
委員	まだ全然、販売数が半分以上にはなっていない。新１年生の人数が増えることはまだあるということか？今の時点では、小学校に入る人数はすごく少ないが、まだ読めないということか？
事務局	北棟の方も130戸ぐらい、まだ販売が完了していないものがあるので、そこにどれだけの子育て世帯が流入するのかというところと、その物件が投資物件で使われているかどうかまでは、開発事業者も掴んでいないので、実際に契約された方が賃貸に出すパターンも想定される。
委員	賃貸については、やはり若い世代が借りそうな感じがする。先ほど聞いた時は、子ど

事務局	も数が少ないと思ったが、猶予を出している場合ではないということである。 定期的に関係事業者とも意見交換をしているので、引き続き状況把握に努めていこうと思う。
委員長	長尾小と宝塚第一小では、そんなに児童数は変わらないが、長尾小の場合は教室の数がかなり多いので、空き教室にはまだ余力がある。 ただ、宝塚第一小の場合はあまり余力がない。だから、何十人か増えることによって、大きく影響が出てくる訳である。万が一、令和7年6月以降、タワーマンションに子どもたちが増えた場合、どう対応するのか？ それからもう1つ、実は今、戸建てのところで広いお家の売却がかなり出ていて、それを2区画4区画に分けて開発される可能性がある。また、旧宝松苑ゴルフクラブは、35戸の開発になるが、業者が決まり、いよいよ工事が始まる場所である。開発には1年ぐらいかかると思うが、これだけのものが、目先にも増えてくるという中で、今後どうしていくのか？ 要するに、減る可能性もあるが、増える可能性が非常に大きいと思う。その対応についてどうするのか？一時的な対応ではなかなか乗り切れないケースも出てくると思うので、そのあたりのリスクをどう考えているのか、お聞かせいただきたい。
事務局	各学年について、学級数が増える定員までぎりぎりの人数という訳ではないので、ある程度、各学年とも一定の児童数の受け入れが可能な状況となっている。そのため、そこで当面吸収するような形になってくる。 普通学級の1学級当たりの児童数の上限は35人で、1学級であれば35人、2学級だったら70人と、35人の児童数で学級数を作っていくことになる。その範囲内、例えば、5学級だったら175人の児童数になるが、大体1年生が5月1日時点では150名、2年生が155名という形で5学級編成しているが、1年生であれば25人、2年生であれば20人、まだ受け入れが可能である。また、3年生は5月1日時点で194人で6学級ということで、210人までは16人の受け入れができる。各学年にそれぞれ一定人数の受け入れがまだ可能な状況となっているので、急激に人数が増えない限りは、受け入れが可能と考えている。
委員	前回までの議事録をざっと読ませていただいた上でいろいろ質問をさせていただく。 まずは弾力的通学区域の運用ということで、少しの調整はされており、それは今も続けているが、それは短期対策である。 議事録の中に中期長期の対策というのがあったと思う。中期長期は、宝塚市のホームページを見ても、例えば先ほど言われた、小中一貫教育を今後どうしていくかとか、あとは通学区域の変更をどうしていくかとか、そういう検討が入ると書かれていた。要は、短期はここ1年2年で頑張りましょう、ただし5年先10年先を見据えた時にこういうことを検討して、こういうふうに解決していくという、タイムスケジュールが見えないと、短期対策だけやっても、その場しのぎの対策のように思う。

	委員長が言われたように、ちょっと増えた場合にどうするのか、その時に考えて、またプレハブを増やしましょうとか、学級数を増やしましょうとか、そういうことになると思う。ある程度そのようなリスクを踏まえた計画というものを立てていかないといけないと考えるが、その辺はいかがか？
事務局	はい。通学区域の整合と小中一貫教育の取組については、基本方針を市で定める予定としており、その基本方針で、具体的なロードマップや方向性、タイムスケジュールとかも示したいと考えている。
委員	その基本方針は、いつ定められるのか？ 今年や来年に出来るとか、そのような予定は？
事務局	今、作成に取り組んでいるところである。今年度策定の方角で検討しているが、手続き等の関係もあるので、今年度末であるとか、ぎりぎりのタイミングになってくると思う。
委員	今、新小１年生で入られる方はすごく少ないと聞いたが、宝塚第一小校区内のレジデンスというマンションは、建てた当初は新婚世帯がすごく入られたが、小さい子ども、赤ちゃん、妊婦の方とかであったため、小学校の児童数が増えるということはなかったが、多分１０年は経っていない去年ぐらいから、その生まれた子とか小さい子どもが、ちょうど入学の世代になってきて、すごい数の１年生、２年生が、ここ数年続いている状態である。 宝塚第一小は登校班で登校しており、登校班を組む必要があるが、マンションごとに登校班を組む形になり、班長、副班長という引率役の子たちを選出している。基本的にどこの地区でも５年生や６年生の高学年の子が務める形となっている。しかし、新しいマンションになると高学年がいないため、低学年の子たちが班長を務めないといけない形になっている。 新しいマンションになると、やはり新婚世帯の方や、小さいお子さんの世帯の方が多いと思うので、来年や再来年に増えるというのは、あまり考えられないが、追々すごく増えてくると思う。もし、新１年生の入ってくる人数などが早い段階で分かるのであれば、班構成などを考えないといけないので、学校にご連絡いただけたらいいのか、お伺いしたい。
事務局	班編成の基礎資料とするため、児童数を教えてもらえたらということであれば、学校を通じて、人数をお伝えすることができると思う。
委員	新しいところなので、そこの班をおそらく作らないといけない。人数が少なければ近隣のマンションとの組み合わせとかにはなると思う。玄関の位置などによっては、合体できない場合とかもあるので、このマンションで何人いるのか等、あらかじめ分かると助かる。

事務局	承知した。
委員	先ほど、委員長がお聞きになった時に、今はいっぱいではないので、20 人ぐらいの余裕があるという話があったと思う。そのお話と、今適正化をしようとしている話では、逆行している気がする。その辺はどのようにお考えか？
事務局	短期的に増えた場合の一定の受け入れの枠はあるけれども、長期的にやはり宝塚第一小は児童数が 1,000 人を超えてきているので、過大規模校の解消に向けた取組が必要になってくる。弾力的運用の取組の説明会などで、宝塚第一小学校区の方は、校区に対しての思い入れが強い、こだわりを持っている方も多いということが分かった。そのため、児童数を減らすための取組として、校区変更ということになると、影響も大きく、いろいろご意見がある方もいらっしゃることから、校区の議論については、慎重にしていかなければいけないと考えている。 そのため、全市的な取組として、小中一貫教育と通学区域の整合を全市的に進めるとい議論の中で、宝塚第一小学校も適正化に向けた検討を進めていきたいと考えている。その中で通学区域を変更しながら、学校規模の適正化に向けた議論も合わせてしていこうと考えている。
委員	35 人学級を全学年で実施されるとなった時に、1 人でも増えれば 1 クラス増えるとおっしゃった。今、各学年でぎりぎりなところが多いと思う。どれぐらいの数がかかるか、本当に瀬戸際というところで、今ですらいっぱいいっばいのところに、35 人学級にしたことによって、クラスが 1 つ増えるとなった時に、どうしていくということも、やはり念頭に入れながら、お話をいただいた方が分かりやすい 現状では大丈夫であるけれども、35 人学級を実施した時に、1 クラス 2 クラスと増えていく、それに加え、障害児クラスも障害に合わせて 1 クラス、2 クラスと増えていくので、そういった場合の対応のことをお話しいたきたい。 今は短期的な教室数であるとか、適正化のことを話しているが、本来、長期的なビジョンをしっかりと考えた上で、現在のお話ということだった。宝塚市の今後の教育行政、宝塚第一小は増えているけれども、少子高齢化は絶対進んでいく中で、全市的な小学校、中学校の運営として、どのような方向性を持っているのか。新しく課ができた中で、そのようなことを進めているのか、お聞きしたい。
事務局	まず、先ほどの人数を申し上げたのは、学級編成上のお話である。これは国の法律で決まっており、35 の倍数で進んでいく。35 人までは 1 学級であり、36 人になると、18 人 18 人の 2 学級になる。2 学級合わせて 70 人となるまでは 2 学級である。71 人になると 3 学級に分かれていくということになる。現状の 5 学級とか 6 学級になったときに、大体 20 名前後の人数について、現状の学級数を維持して児童の受け入れができるというのが、先ほどの説明である。 ただ、そうすると、1 学級当たり 35 人いっぱいになってしまうので、それが良いのか

	どうかという、また別議論になる。35 人の子どもたちと、あとは特別支援学級の子どもたちも交流学級として教室に入ってくることもあり、今、申し上げた 20 人前後の余裕があるから、まだまだ受け入れても大丈夫という発想にはならない。ただし、教室数として足りるか足りないかという視点で考えた時には、何とか足りるでしょうという考え方である。 旧宝塚ホテル跡地のマンションで、予期せぬ状況が起きて、子どもたちが増えてしまった場合には、このように受け入れることは可能であるが、ただ、これの教育環境は決していい訳ではない。そのため、受け入れが可能だったとしても、その先の校区変更や小中一貫教育の取組も含めて、継続して検討していきたいというのが事務局としての考え方である。 小中一貫教育に取り組むにしても、校区をこのまま維持するということはない。いずれにしても、必ず校区は変わるので、校区のあり方というものは、きちんと議論していかないといけない。この地域の皆様方に対して、校区変更というものが大きな課題である、これに取り組んでいかないといけない、という意識付けを少しずつしていくような取組は、いずれにせよ必要になってくると思う。これも全市的に取り組もうとしている。 過大規模校という課題がある一方、子どもたちが減ってしまい、学校の数減らしていかないといけない地域もある。宝塚第一小だけではなく、お隣の地域も含めて、一緒に検討していかないといけないが、やはり軸になるのは大きな学校である。大きな学校がどういうふうに変化していくかによって、周辺の学校というのも無くなっていくのか、或いは維持するのかということが決まっていく。そのため、そういう意味では、この宝塚第一小であったり、お隣の宝塚小学校、さらには長尾小学校のような 3 校あたりがキーになって、今後、校区再編というのが進んでいくのかなと思う。この適正化検討委員会で今後も継続的な協議が必要であると考えている。
委員	先ほども申し上げたが、中長期的な取組は非常に大事だと思う。それが 10 年先なのか、20 年先なのか、もしくは 30 年でできていないのか、ということは非常に大きな問題であると思う。だから、ある程度、5 年なのか 10 年なのか、どのようなスパンで、そういうものに取り組む、やっていく、というものを提示していただきたい。今はある程度我慢しましょうとか、そういうことはやりくりができると思うけれども、やはり将来に向けた取組というのは、この委員会の存在する意義だと思う。是非とももう少し明確に、全体の流れ、タイムスケジュールを示していただきたいと思う。
委員長	令和 6 年度の 23 小学校の児童数を全部見ると、300 人を切る小学校というのは 6 校ある。それから、今年の 1 年生のクラスで、2 つクラス或いは 1 クラスしかない小学校は 14 校ある。 その中で、宝塚第一小学校の 1 年生は 5 クラスである。クラス数としては、2 倍以上の状況である。これがこのままでいっても、なかなか解消できないというのは、子どもたちに対する教育への影響は非常に大きいと思う。保護者の皆さんについては、確かに宝塚第一小に対する思いが強いとか、或いは他校への選択制を設けても、他校を選択する気持ちはない、という思いがあることは否定できない。しかし、現実の問題として、

事務局	非常に切実な学校格差の問題が起こって、それがこれからも続きそうである。かつ、中学校の光ガ丘と宝塚について、もう間もなく 500 人を超えようとしている。宝塚第一小の児童数が増えていることは、当然ながら、中学校の規模にも影響してくる。特に光ガ丘が増えてきている。 やはり根本的に、この問題は時間がかかるかもしれないが、学校選択制で終わるのではなくて、もうちょっとスピード感を上げて、次のステージをどうするかというのを考えていく必要があるのではないのかと思う。いかがか？ 確かにこの宝塚第一小学校区は、他の地域と比べると、子どもたちの数の減り方が非常に少ない減り方になっている。場合によっては、マンション建設によって多少増える傾向に転じるかもしれないということは、他とは教育環境が違うということであり、また中学校の方でも生徒数の増加が危惧されるところである。 校区の変更や、学校の機能のあり方については、本当にデリケートな問題があるので、なるべく具体的な答えを出さない中でも地域に問題提起をしていくところから始める方法が必要かと思う。答えを出すとなると、イエスかノーかどちらかで必ず答えが出てきて、これがノーとなれば立ち行かなくなってしまう。そのため、まずは課題共有を深めて、その解決方法が何なのかといったところを、説明会を重ねて、進めていかなければいけないと思う。今までの経過の中で、今後の具体的な進め方というのは、この会議では一定の共有が出来ていると思う。それをいかに地域の方々であったり、保護者一人ひとりに、しっかりと問題提起をしていくことで共有し、いろいろな反対意見も出てくると思うが、そこから課題解決に向けて、どうしたらいいのかということも含めて議論いただくような、今後、説明会も含めた発信というものが必要であると思う。そのようなことを具体的に実施する中で、スケジュールみたいなものも出てきたらいいと思う。 ただ、例えば、取組を始めても、中山台小学校では、検討から取り組み始めてから 5 年 6 年かかっている。なかなかすぐにできるものではない。例えば、学年ごとに段階的に進めるとなれば、6 年間かかってしまい、ゴールは相当先になる。ただ、どこから着手していくのかというのは、やはり早めに提示しなければいけないと思う。計画期間がどれだけかかるのか、6 年かかるのか、7 年かかるのか、ということを示して、ある程度、保護者、地域の中で合意形成が取れたら、スケジュールも含めて、提示していく必要があると思う。
委員長	突然ですが、一番苦労されている先生がいらっしゃるということで、現状について、生の声をお聞きしたい。
委員	本日、代理で来させていただいた。 宝塚第一小の現状として、働く我々教員の立場としては、来る者拒まずであるので、この人数と言われたら、それでやるしかないというのが現状である。本年度も、先ほど説明があった通り、全体で 32 学級でやっている。ただ、今日の午前中も P T A の方でお話をさせていただいたが、プールの指導を見ていると、どうしても 180 人でプールを

	使う、暑い中で待っている子がいる中で、全員がシャワーを浴びるのに時間が 10 分かかる、どうしても泳げない子に配慮しながらやっていると、泳がないで次の順番を待っている時間が長いとか、教育環境が本当に今のままで適正なのかと言われたら、まだまだ改善の余地があると思っている。 トイレの数が足りない、手洗い場の数が足りない、運動場で自由に遊べない、人数が多いということを理由にして、本当に多くの問題を感じているところである。 ただ箱物で見ると、過大規模校にはなっているものの、まだ若干の余地があると言われれば、「はい。そうである」と言うしかない。しかし、現場としては、何をするにも人数が多い、校外学習の予約をするにも人数が多すぎて行けないところがある。バスを予約するにも 5 台 6 台は予約が取れないという時もある。子どもにとって本当にいいところというのは、やはりもう少し人数的にもゆとりがある方がいいのではないかと、というのが正直なところである。 児童数が本当に多いことで、困ることしかないと思っているが、どんな子どもも本当に大切に見させていただいている。現状は安心して通っていただける環境を作る側であるので、今のところは大丈夫であると言いたい。言いようがない。 お時間いただき、感謝を申し上げます。
委員長	貴重なご意見ありがとうございます。何かご意見あれば。どうぞ。
委員	中学校の方も、数年前と比べまして、学級数がおそらく各学年で 2 クラスずつぐらい増えていて、私たちが在籍していた 10 数年前よりもクラス数が増えていると思うが、教室は中学校の方はまだ確保されているのか？ 私たちは地域から入らせていただいているが、期末テストなども、いろいろな生徒に配慮するということで、テストなどもいろいろな形式でされていることもあって、教室が足りていない、ということを先生方から聞いたことがある。中学校の教室数は、1 クラス、2 クラス増えたとしても、まだ大丈夫なのか？
事務局	中学校の教室数は、また若干の余裕はある。中学校では一時期、9 クラス 10 クラスという時代もあって、増築をしてきたという経過があるので、教室数としては十分にある。ただ、いろいろな目的で、そのような空き教室を転用してきたので、場合によっては、その転用した教室をもう 1 回普通教室に戻さないといけないという場合はあるかもしれない。そのため、現在は余裕のある教室展開をしているものが、もしかしたら将来、その余裕に少し制限がかかるかもしれないという状況である。
委員	資料 2 の項目 2 番、変更点に非常に興味がある。 (1) で調査期間を 1 ヶ月ぐらいにするという話であった。1 ヶ月はそれでいいが、今の 3 歳 4 歳 5 歳については、4 歳 5 歳ぐらいから意識調査をしたらどうかと思う。 その理由としては、今、宝塚第一小はこのような状況なので、他にいろいろな余裕のある小学校があるので、意識調査をするということである。例えば、年に 2 回ぐらい、春と秋とかに、強制しないような、やんわりとしたアンケート調査でいいと思うので、

	繰り返されることで、やはり考える人も出てくると思う。もう来年入学というような、父兄だと、選択する余裕が時間的にないと思うので、2年ぐらい前から調査をするという工夫もあっていいと思う。 やはり、繰り返されることで考える人も10人に1人はいる。そのように戦略的に意識調査をするという手もある。当然、何年かすれば、状況が変わって余裕ができたということもあるかもしれないが、今はこういう現状なので、理解を求めた上で調査をする、ということを実施してはどうかと思う。
事務局	やはり、地域や保護者に意識を持ってもらうということが非常に重要である。この課題に気づいてもらうということである。 そのような意味では、委員がおっしゃったような周知期間に、現状をきちんと説明していくということは非常に重要であると思う。今後、周知するときには、その時々为学校の実情、それには空き教室について、例えば、宝塚市内の標準的な教室の使用状況と宝塚第一小の比較みたいなものや、図工室・音楽室の使える割合、理科の実験できる割合、或いは運動場や体育館の1人当たりの面積の差なども出して、近隣校の末広小、逆瀬台小、西山小との違いをお知らせして、そもそも隣の学校とこれだけ違うということも含めて、ご理解いただくところからのスタートが必要であると思う。そこには力を入れて取り組んでいきたいと思う。
委員長	大分時間を押し迫ってきましたけども、あと何かご意見があれば。
委員	確かに宝塚第一小の保護者の意識の中で、この学校にこだわる方はたくさんいると思うが、宝塚第一小は西宮市と隣接していて、月見山地区や長寿ガ丘地区というのは、この学校に通うために相当な時間をかけて学校に通わなければならない状態である。 近くの公園で遊ぶお友達も実は西宮の子であって、同じ学校には通えない。そのような方々は、おそらく選択肢に西宮の小学校が入れば、移られる方もいらっしゃるのではないか、と感じている。市を跨いでの、そのような戦略は難しいと思うが、いかがか？
委員	遠いと思う。月見山からは、生瀬の小学校が一番近いけれども距離は遠い。宝塚第一小よりも逆に遠くなってしまう。
事務局	制度としては、公立の小・中学校は、自治体である市町村が指定するという事になっている。実は宝塚市の中には、飛び地で満願寺地区というのがあり、長尾台の方にあり、川西市に隣接しているところであるが、川西市の飛び地となっている。そのため、川西市の子が宝塚の長尾台小に来ている。西宮市も、今はどうか分らないが、山口町の奥の方は神戸市北区と隣接して、近くの小学校に通っているという地域はある。 そのため、西宮市と宝塚市が相談して、受け入れについて、お話すれば可能である。ただ、お金がかかる。1人当たり10数万円を年間お支払いしている。宝塚市も川西市からいただいている。西宮市にお支払いすれば、可能なお話であると思う。 将来的には、学校の数も精査していかなければいけない時代が来る。月見山と長寿ガ

	丘の近くの学校というと生瀬小学校であり、かなり遠いが、反対の川西市側は、市境に学校がある。校門の目の前が宝塚の住所になっていて、校門に一番近いのは宝塚市の人であるが、校門の前を通過して山を登って長尾台小学校に行かないといけないという地域もある。将来的には、市域の壁を越して連携しながら受け入れをしていかないといけない、そんな時代も来ると思う。おっしゃっていただいたことは、将来的な検討が必要な件であると思う。
委員	先ほど、子どもたちの1人あたりの面積をそれぞれ出してくださるということだったが、合わせて小学校の規模も出してほしい。この学校は現状何クラスで、普通学級は何クラスまで大丈夫であるとか、各学年のクラス数や人数も入っているほうが分かりやすい。全部の学校が、宝塚第一小みたいな大きさではないことが分かる、比較できるものがある方が分かりやすいと思う。
委員長	いろいろな意見が出た。 基本的には、弾力的運用をさらに深めて、皆さんにご理解いただいて、この制度がもっと広がっていくよう取り組むこと。 もう1つは、マンションについて、当面、入居者の中で小学校に入る児童は多くならないという見込みであるので、今の状況の中で対応していくということである。 ただ、1,000人を超える小学校というのは、全国で1%しかないそうである。この課題はやはりこれからも続くと思うので、このような形の話し合いの継続、或いは保護者の皆さんにもご理解いただかないと、なかなかこの問題の解決はできない。住民だけで、或いは教育委員会だけでは解決できない問題であるので、この辺りを深めながら、この会をもっと発展的な会にしていきたいと思うので、よろしくお願いしたいと思う。 今日は本当にたくさんの皆さんの自由意見が出て、非常に参考になったと思う。時間も来たので、これで今日の会議については、終わりにしたいと思う。 ご参加いただき感謝申し上げます。 次回につきましては、また改めてご連絡させていただく。